

<空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！>

2016. 7. 18

JAL闘争を支える京都の会News No. 49

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

第3回 京都大学一稻盛財団合同京都賞シンポジウム

京大時計台入口で 抗議宣伝行動やり抜く！

7月9日、京都大学百周年時計台記念館で「第3回 京都大学一稻盛財団合同京都賞シンポジウム」が開催されました。「JAL闘争を支える京都の会」のメンバーと小森啓子さんらJAL争議団3名の方とで、開催時間の1時間前から「日本航空の不当解雇撤回！空の安全を守りましょう！ 現代企業の三悪人・・・アメーバ経営方式で世界の空が危険！稻盛和夫さんの経営『哲学』とは」と題したJAL闘争京都共闘のビラ約300枚をシンポジウム参加者に配布しました。稻盛和夫京セラ名誉会長本人が様子を見に来る有様で大変効果があったと思います。JAL稻盛和夫名誉顧問は1日も早くJALが不当解雇した165名を職場に戻すべきです。



京セラ株主総会 抗議宣伝行動

6月24日、京都市伏見区の京セラ本社ビルで、京セラ株主総会が開かれました。午前10時から総会は開催されましたが、その1時間前から近畿や東京から参加したJAL争議団、「日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議」の労働者、地域の労働者、「J（ウラ面に続く）

「JAL闘争を支える京都の会」のメンバーなど約50人が「JAL不当解雇撤回」などのノボリや横断幕を掲げて京セラ本社ビル前に居並び、総会参加者にビラを渡すとともにマイクでアピールを行いました。京都支援共闘の梶川憲世話人（京都総評議長）から主催者あいさつを受け、JAL客乗原告団の鈴木圭子副団長から「断固勝利を勝ち取る。」との力強い決意表明を受けました。



株主総会には京都支援共闘の稻村さんとJAL客乗原告団の鈴木副団長が出席し、それぞれ発言しました。最初に山口悟郎社長が「昨年は日本航空の問題が出されたが、日本航空の労使問題については別会社の問題であるので、くれぐれも発言をお断りする。」と述べ、そのおかげで、知らなかつた総会参加者にまで京セラとJALの労使問題は関係があると気づかせ、逆宣伝になりました。

稻村さんは「インサイダー取引について」「今回の株主総会に稻盛氏が欠席であることについて」発言し、鈴木さんは「(京セラが直営する人口宝石の) クレサンベール店の事業展開について」「京セラ社員の勤続年数が17.8年であることについて」発言しました。

今後も稻盛氏を追い詰め、JAL不当解雇撤回を勝ち取りましょう。

JAL闘争を支える京都の会・交流会

JAL客乗原告団の副団長である鈴木圭子さんをお招きして、JAL闘争を支える京都の会・交流会が6月24日、京都市内で開かれました。



最初に南会長が「しつこく闘いを継続することによって闘いに勝利することができる。」とあいさつしました。次に鈴木さんが最近の状況の報告をおこない、鈴木さんは「JALの株主総会は昭和シェル労働組合の方を中心に支援者5、6人が総会に入り、『日本航空の経営は今までいいのか。』という発言と不当解雇問題について発言した。JALは乗員の流出が止まらない。サービスも落ちているし、安全上のトラブルも増えている。解雇が強行されたことによって、職場がモノの言えない職場になっている。あと、自分の仲間を切り捨てたということの日本航空に対する不信感、労働条件が悪いということで働き続ける展望が見出させない状況になっている。会社がこの解雇問題を解決して、労使関係をきちんと正常化して、風通しの良い職場をつくらない限り人材流出は止まらないだろうと私たちは分析している。これからも解雇撤回に向けてご支援をお願いしたい。」と述べました。その後、懇親会をおこない、今の状況などさまざまなことを話し合いました。